

第 3 学 年 道 徳 学 習 指 導 案

3 年 1 組 指 導 者 坂 本 哲 彦

研 究 課 題

子供一人一人が、お年寄りとよりよくかかわろうという思いを強く抱き、思いやりの意味を仲間と共に明らかにできるようにするためには、どのような支援をすればよいか。

単 元 おじいさん、おばあさんといっしょ

1 研究課題について

本学級の子供たちは、1学期に総合学習「白石地区の公共施設を調べて、親子ウォークラリーをつくろう」を中心とした総合単元的道徳学習を行った。そして、公共施設のよさやそこで働く人々、保護者の願いを調べ、ふるさとや人に対する思いを強くした。また、お世話になった方に感謝の気持ちを表すことのよさをみんなで確かめ合った。このような子供たちが、人とのかかわりが一層強い「お年寄りを支えるボランティア活動」に取り組む。その中で子供たちは、お年寄りやボランティアグループの人と触れ合いながら、仲間と共に新たな道徳的価値に気付き、捉え直しをするであろう。そして、道徳的価値の自覚を深め、人とかかわり共に生きていくために必要な道徳的実践力を高めていくと考える。

本単元は、一人暮らしのお年寄りを支えるボランティアグループ「あじさいの会」の月例会に参加させていただき、お年寄りのための小物作り活動や食事会などを一緒に行う総合学習と、4単位の道徳の時間を総合単元的に構成したものである。4回の月例会参加により、子供たちは、お年寄りとよりよくかかわるために大切な思いや行いについて自覚的に、繰り返し学んでいく。しかし、「お年寄りを支えるボランティア活動」は思うほど容易ではない。活動の準備に自分の時間を割きながら、月例会のよりよい運営・手伝いを目指す中で、子供は、認知・技術面の問題はもとより、力を合わせて進んで働いたり、相手の立場に立って真心をもって接したりという心情面の問題に直面するからだ。それを乗り越え、お年寄りに喜ばれ自分たちも納得のいく会にするためには、実践を支える道徳的価値（思いやりを中心とした尊敬・感謝、勤労、礼儀等の価値）にこだわり、体験や生活と関連づけながら、そのよさや意味を仲間と共に十分見つめ合い、明確にしていくことが必要となる。よって、上記の課題を設定した。

そして、以下の支援を具体化し、課題の解明を図ることとする。

- ・総合学習と単元化し、実際の共同体験を資料化したり活動の具体を強く想起させたりして、自他のこだわりや価値観が表出されやすく、また、互いに受容されやすくする。
- ・総合学習での気がかりを出し合い、同じような思いや願いを受け止め合う活動を仕組むことで、「みんなの気がかりをみんなで解決する」という構えをつくる。
- ・仲間の意見によりよく応じることができるよう、聴き方や話し方が高まる手だてを工夫し、互いの思いや願いが絡み合いながら深まりるようにする。
- ・みんなの学びの成果やよさを感じ取れるような振り返り活動をし、総合学習や日常生活でのお年寄りとのふれあい、ボランティア活動に対する新たな心のめあてを持たせる。

2 目 標

一人暮らしのお年寄りの方に喜んでもらうために、相手の立場に立って真心をもって接し、あじさいの会の方と一緒に、進んでよりよい例会をつくることよさを感
取ることができるようにするとともに、お年寄りに対する尊敬と感謝の心情を養う。

3 指導計画 道徳12M(4時間) 総合学習96M(32時間) が本時

総合単元的道徳学習【おじいさん、おばあさんといっしょ ~あじさいの会と共に~】

1次 一人暮らしのお年寄りとの交流の計画を立てる 21M(7時間)

- 一人暮らしのお年寄りのために手作業やお食事会の世話をしている「あじさいの会」から、9~12月の例会を一緒にやりませんかと誘われたよ。一度参加してどうするか話し合おう。9月の例会は一緒に金魚の小物作りをするよ。(7M)
- 9月の例会のお年寄りの人数は少なかつたけどいい活動だったな。12月までやろう。お年寄りや会の方に喜んでもらえる楽しい活動をみんなで作ろうよ!あじさいの会や社会福祉協議会の方を招いてボランティア学習もしよう。(14M)

2次 一人暮らしのお年寄りとの交流をする 69M(23時間)

- あじさいの会の方との交流会。お年寄りに喜んでもらうのがやりがいであった。(7M)

道徳の時間「れいぎをささえる心」 *礼儀・真心 2-(1) 3M(1時間)

資料「電話のおじぎ」(光文)のおばあさんの行動について話し合おう。礼儀の言葉と動作の両方に必要なのは真心という相手を思う気持ちなんだな。例会がんばるぞ。

- 10月は食事会の手伝いと自由な話、手紙渡し。喜んでもらえて楽しかった。(11M)
- 社会福祉協議会の方と「お年寄り体験」。手足がよく動かなくて大変だ。(7M)
- お年寄りや体の不自由な人が歩きにくい町になっているんだなあ。(7M)

道徳の時間「進んで働く」 *勤労 4-(2) 3M(1時間)

資料「進んで働く」(自作)を読んで話し合おう。力を合わせて自分から仕事をするのはとってもいいことだな。11月の例会では進んで手伝うよ!



- ゆいの会に誘われたよ。初めてだったのでなかなか話せなかったな。(7M)
- 11月の例会だ。一緒に小物を作ろう。さんに喜んでもらえてうれしい。(12M)
- 12月の例会は、自由なお話と出し物をしよう。歌?グループ活動もいい。早速グループ毎に準備しよう。さんは手品が好きだとおっしゃってたよ。(9M)

道徳の時間「本当の思いやり」 *思いやり・親切 2-(2) 3M(1時間)

資料「老人ホームで」(光文)を読んで、どの登場人物の気持ちに賛成か話し合おう。お年寄りのためにする行動や言葉は相手をしっかり思う気持ちが必要だね。

- 12月の例会だ。グループの交流、何とかやることができ満足だなあ。(9M)

3次 全体の交流を振り返って、話し合いをする 6M(2時間)

- みんなに喜んでもらえて自分もうれしかったよ。会の仕事は大変だね。(3M)

道徳の時間「ありがとう」 *尊敬・感謝 2-(4) 3M(1時間)

お年寄りとの交流会の様子、記録からお年寄りのすばらしいところを出し合い話し合おう。お年寄りには、尊敬と感謝の気持ちをもって接していきたいね。

- お年寄りはいろいろな事をご存じだったよ。会の方にお礼の手紙を書こう。(3M)

4 本時案

3年1組教室

(1) ねらい 登場人物の気持ちについて話し合うことを通して、お年寄りのことを思いやり親切にしようとする心情と態度を養う。

(2) 学習過程

12月の例会の見通しについて気付きを発表する (10分)

学習内容 ・活動のよさ、問題点 ・価値への気付き



例会でうまくいきそうだなあと考えていることと不安だなあと考えていることを教えてください。

- ・昼食の配膳は10月にやったので前より緊張しないと思うよ。
- ・グループ交流はもう少し練習があるけど、まだ不安だな。
- ・知らない人にどう接したらいいのかわからない。みんなは？
- ・私も～さんと同じだ。みんなで、お年寄りにとってよい交流会にするために大切な気持ちや行いについて話し合おう。

資料を聞き、「ぼくたち」の行動について話し合う(25分)

学習内容・自他の「お年寄りを思いやる」気持ちや行動

- ・3-1の総合と少し似ているね。考えを出し合ってみよう。
- ・いくつかの考えが出てきたね。登場人物はそう考えたのかあ。
- ・私は、「ぼく」の意見に賛成だな。言い残したことがあるままではいやな気持ちになるよ。ぼくもこの前そうしたよ。
- ・でも「太一」が言うように他のお年寄りに相手がないのだから、移動する方がいい。君もぼくと同じ意見ですか？
- ・ぼくも君と同じで「太一」の意見に賛成。目標が「たくさんの人と遊ぶ」だから。同じ人ばかりじゃいけないよ。
- ・私は君とは違って、「良和」の意見と同じだな。一番大切なのは、お年寄りが楽しいことだから、他の人と交代したらいい。ぼくがこのおじいちゃんだったらそれがいい。
- ・ぼくは、この三人の中で一人がこのまま残って一緒に遊べばいいと思う。君と君は理由は同じなのにやり方が違うよ。一番大切なのはみんなが楽しいことだと思う。どうしたらいいか、このおじいちゃんに相談してみるのもいいんじゃない。
- ・どの方法でも相手の気持ちをしっかり考えることだね。その思いを言葉や行動で伝えることを「思いやり」と言うのかあ。

総合や本時を振り返り、気付きを発表する。(10分)

学習内容 ・お年寄りに親切にしようとする心情と態度 ・課題

- ・ぼくは おじいちゃんの希望を聞いて手品ができるように手品の種類を増やそう。あじさいの会の方にもお礼が言いたい。
- ・君の「まず、おじいちゃんに相談する」という発言は心に残ったな。それでみんなの話し合いがよくなったと思うよ。
- ・12月の例会でお年寄りと遊ぶのがもっと楽しみになったよ。

支 援

子供の発言に関連する総合の様子を写真や作文で示し、思いを出しやすくするとともに、それを広げ、共通の気がかりをみんなの意見を聴き合い解決しようという構えを持たせる。

考えの根拠や具体から、総合の共同体験での思いを引き出す問い返しや資料提示の工夫をし、こだわりを強める。

友達の意見を予想して聞かせたり、仲間質問、賛否等の意見で積極的に応じる子供の姿を見取り、価値づけ広げたりする。

板書上で意見の異同を明確にしたりお年寄りを自分に置き換え考えさせたりして話し合いを深める。

「思いやり」という観点から活動や生活を見つめ直させるとともに、共に聴き合いを進めたことで学びが深まったことを価値付け、心に残った意見を認め合う。

